

ここはこう書け!

いちばんわかりやすい

科研費申請書

の 教科書

科研費 .com 著



講談社

序文

皆さんは、社会学におけるピーターの法則をご存知でしょうか。この法則は、「優れた仕事をした人は高く評価され昇進するが、このプロセスが繰り返されると、彼らは最終的に自分の能力を超えるようなポジションに昇進してしまい、そのポジションでうまく機能できず『無能』になる」というものです。

研究者のキャリアにおいても、この法則は適用されます。つまり、研究者のキャリア初期には研究能力が重視されますが、昇進するにつれて、申請書の作成能力やプレゼンテーション能力など、研究費を獲得するための能力が求められるようになります。研究能力と申請書の作成能力は一部共通する部分もありますが、基本的には別々の能力であり、研究者としてさらに成長するためには、申請書をうまく書く能力を新たに身につける必要があります。

最近では申請書の書き方を指南するハウツー本が数多く出版されており、ネット上にもコツが多く掲載されていることから、申請書作成のハードルはずいぶん下がってきました。科研費.com (kakenhi.com) でも2016年から科研費申請書作成のノウハウを公開しており、2019年には『できる研究者の科研費・学振申請書 採択される技術とコツ』（講談社）を出版し、多くの読者に申請書作成のコツを届けてきました。

しかし、研究費を巡る状況は厳しさを増しており、より本質的な申請書作成技術について学びたいというニーズの高まりを感じてきました。そこで本書は、前著のパワーアップ版として、科研費・学振申請書作成において即効性のある具体的なコツについて解説を大幅に拡充するだけでなく、より本質的な申請書作成技術についても学べるようにしました。

本書では申請書を11の要素に分け、それぞれの要素において、何を・どこに・どのような順序で書くのかについての説明に多くのページを割いています。申請書は審査員に対する説得と提案のための文章であり、どんな種類の研究費であっても書くべき文章の要素はほとんど同じです。そのため、本書で学ぶことのできる申請書作成技術は、研究者のキャリアを通じて役立つ一生モノの技術になると考えています。

2023年7月

科研費.com

目次

第1章

申請書を書く前に 1

1.1節	本書の使い方	1
1.2節	個人で応募可能な研究費の種目、研究期間、 申請資格	6
1.3節	何を研究するか	11
1.4節	オズボーンのチェックリスト	16
1.5節	エフォート	18
1.6節	研究課題名	26

第2章

何を・どこに書くか 34

2.1節	申請書の原則	34
2.2節	申請書の要素と構成	37
(A)	概要・要旨	47
(B)	背景と問い	56
(C)	研究動向と位置づけ・着想の経緯・研究の意義	74
(D)	独自性・独創性・特色	84
(E)	本研究の目的	92
(F)	研究方法・研究計画	99
(G)	準備状況	110
(H)	申請者の役割	115
(I)	創造性・将来展望	120
(J)	研究環境	125
(K)	人権の保護	128
(L)	研究室の選定理由	133
(M)	研究遂行能力・業績	140
(N)	自己分析・自己PR	148
(O)	評価書・推薦書	155

申請書のデザイン…………… 161

3.1節	図表のテクニック……………	161
3.2節	日本語作文の基本テクニック……………	167
3.3節	わかりやすい日本語作文のテクニック……………	173
3.4節	ニュアンスを示す日本語作文テクニック……………	176
3.5節	引用文献のテクニック……………	179
3.6節	申請書で頻出のWordのテクニック……………	181
3.7節	フォントと修飾のテクニック……………	185
3.8節	配置と間隔のテクニック……………	195
3.9節	揃えるテクニック……………	203
3.10節	削る・詰め込むテクニック……………	206

申請書を書いた後に…………… 210

4.1節	チェックリスト……………	210
4.2節	推敲……………	212